

くらしに貢献する名古屋市立大学の研究トピックス

子どもから大人まで 発達障害に関する研究・臨床拠点 こころの発達診療研究センター

2023年8月、名古屋市立大学病院に「こころの発達診療研究センター」を開設しました。発達障害を抱える方々に対する医療と支援を目的とし、名古屋市からの寄附のもと、設立しました。

子どもから大人まで、発達障害の全ライフステージに対する高度な医療を分野横断的に提供し、名古屋市と共同で医療以外の面においても子育て、教育、就労といった日常生活全般に深く関わる支援体制を作ることが本センターの使命です。

具体的な調査研究としては、(1)神経発達症に関する医学的な調査研究、(2)医療・保健・福祉・教育などの現場で活用できるアセスメントツールの開発、(3)神経発達症の診療に関わる医師を対象とする神経発達症研修プログラムの開発、(4)神経発達症の支援に関わる職員を対象とする発達支援プログラムの開発を行っていきます。そして研究成果を踏まえ、診療体制の構築、発達障害に関わる職員研修、困難ケースへの対応に関する助言や支援、全ライフステージにおける神経発達症に関する職員向け支援ガイドラインの作成といった連携事業も行っています。

本センターでは今後、発達障害に関する研究・臨床拠点として、高度な医療の提供、医学的な調査研究等に取り組んでいきます。



不妊治療に幅広く取り組む 生殖医療センター

2023年9月、医学部附属西部

医療センターに、「生殖医療センター」を開設しました。急激な少子化が社会課題として注目される中、本格的に生殖医療に取り組む施設として始動しました。不妊治療中に入院処置が必要な場合には、西部医療センターにて対応でき、妊娠が成立した場合にも、同院内の産婦人科で出産まで継続して受診が可能です。治療から出産まで、病院が一体となり、総合的に男性・女性いずれの不妊治療にも取り組むことができる全国的にも珍しい病院となっています。望んでも子どもをなかなか授からないカップルの力となるよう、支援体制を整えています。



魅力ある名古屋の地域社会づくりに貢献 なごや学研究センター

2023年4月、「なごや学研究センター」を開設しました。名古屋のまちづくりや社会教育、歴史観光、文化振興等の醸成を進めていくにあたり、名古屋の近世史を学術的に体系化し、調査研究を推進していきます。

同年9月には、城郭考古学の第一人者として全国的に著名な千田嘉博(せんだ よしひろ)氏を本学の寄附講座教授に迎え、市民向けの連続講座を開講するなど、地域貢献の取り組みを始めています。

本センターは、名古屋の近世における歴史を、考古学的見地を踏まえ研究することで特色ある大学実現の一助となり、また、その研究成果を発信することで魅力ある地域社会づくりに貢献していきます。



ご寄附のお願い

なごや先端研究開発センターは、本学の自己財源と名古屋市からの共同研究費等に加え、民間企業、市民の皆さまからのご寄附による「なごや共創研究基金」を財源として運営されています。本学では広くご寄附の協力を仰ぎ、研究の人材育成・環境整備とともに国際研究、臨床研究などの推進を図るために活用させていただきます。

何卒、本センター設置の趣旨をご理解いただき、ご寄附のお力添えを賜いますよう心からお願ひ申し上げます。

問い合わせ先

名古屋市立大学 研究開発課 (2024年4月新設)

TEL : 052-853-8639

E-mail : ncu-sentanrdc@sec.nagoya-cu.ac.jp

なごや共創
研究基金の

名古屋市立大学

100億円規模の支援とともに

なごや先端研究 開発センター 誕生

「研究」で
くらしに笑顔を



センターに関する最新情報は、
大学ウェブサイトからご覧ください。



英語版パンフレットは、
大学ウェブサイトに掲載しています。

The English version is available on the website.



「研究」で暮らしに笑顔を

明るい未来を切り拓く世界をリードする魅力ある大学へ



なぜ今、「研究力」なのか

🌟暮らしを支える研究

私たちの暮らしは、さまざまな研究成果によって、支えられています。例えば、医療においては医薬品や医療機器の開発の進歩により、私たちの平均寿命は確実に伸びています。また、文化・芸術・自然・生物・統計などの分野における数限りない研究成果によって、私たちの暮らしが豊かになっていることは、皆さんも実感できるのではないでしょうか。



🌟名古屋市立大学の役割

本学は、名古屋市を設立団体とする公立大学として、社会を取り巻く諸問題を解決する役割を担っています。大学の使命でもある「教育」「研究」「社会貢献」「医療」に真摯に取り組む、8学部7研究科5病院体制の総合大学です。本学では、私たちの暮らしを支える「研究」に、さらなる誇りと情熱を持って取り組もうと、2023年12月に「なごや先端研究開発センター」を開設しました。

🌟名古屋市とともに、研究力を強化

本学が達成すべき業務運営として、2024年度から始まる第四期中期目標・中期計画でも、研究力の強化が示されています。科学研究費助成事業において、2022年度の本学の採択件数は公立大学で第2位となっており、女性研究者、若手研究者(40歳未満)の採択件数は公立大学で第1位となっています。本センターの開設とともに研究力をさらに向上させ、広く社会に還元することで、名古屋のまちの発展に寄与し、研究成果を世界に発信することで、さまざまな諸問題の解決を目指します。



🌟キーワードは、「研究」で暮らしに笑顔を

研究は長い年月をかけて行われます。研究活動の裏には数えきれない苦労があるでしょう。でも、その先に見える皆さんの笑顔を目指して、研究者たちは日夜、新たな発見を追い求めています。たどり着いた先に見えるもの、それは研究者の、そして何より私たちの笑顔です。それが、豊かなくらしへとつながる第1歩。一見、難解で私たちのくらしとかけ離れているような研究も、皆さんを笑顔にできる身近なものなのです。名古屋市立大学の最先端の研究が、私たちのくらしを笑顔にし、明るい未来を切り拓くものと信じています。



<名古屋市立大学とは>

■8学部7研究科の総合大学
医学部／薬学部／経済学部／人文社会学部
／芸術工学部／看護学部／総合生命理学部
／データサイエンス学部(2023年新設)

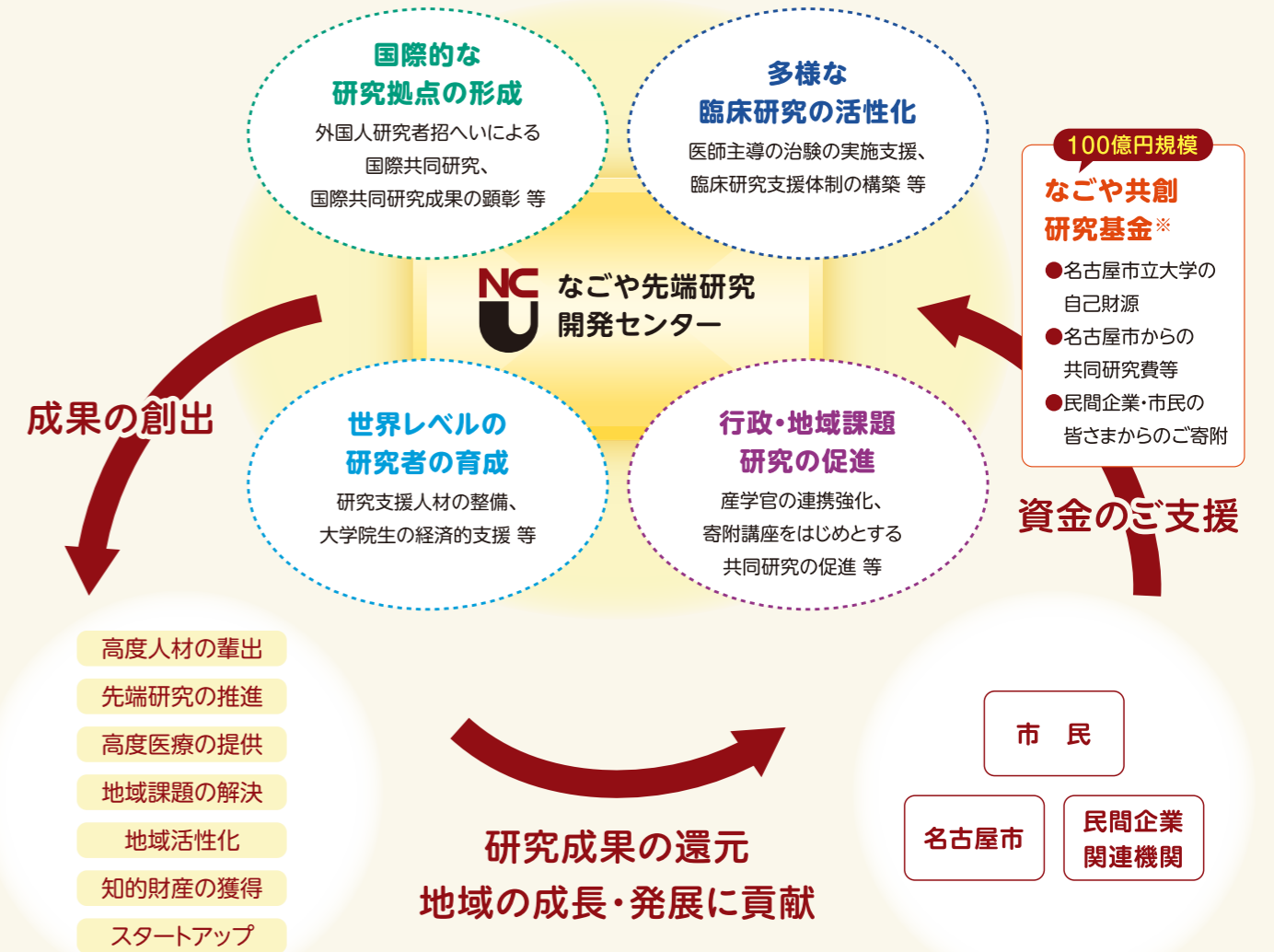
■国公立大学として全国最大級の
約2200床を有する5つの医学部附属病院
・名古屋市立大学病院
・東部医療センター 西部医療センター
・みどり市民病院(2023年附属病院化)
・みらい光生病院(2023年附属病院化)

■ますます発展する名古屋市立大学
2025年4月に医学部を再編し、保健医療学科(仮称)リハビリテーション学専攻を設置構想中です。また、同年4月、総合リハビリテーションセンター附属病院が新たに大学病院化となる予定です。
さらには同じく4月に大学院データサイエンス研究科(仮称)を設置する構想を進めるなど今後のさらなる発展に向けて動き出しています。

なごや先端研究開発センターの使命

なごや先端研究開発センターは、「国際的な研究拠点の形成」、「多様な臨床研究の活性化」、「世界レベルの研究者の育成」、「行政・地域課題研究の促進」を4つの柱として、地域から地球規模に至る社会課題を解決し、よりよい社会の構築に寄与していきます。

そのため、名古屋市立大学の経営努力による自己財源50億円に加え、名古屋市からの共同研究費等、民間企業・関係機関・市民の皆さまからのご寄附により研究資金100億円を目指す「なごや共創研究基金」*を新設します。その基金を活用し、研究力強化に努め、「世界への発信」と「地域への貢献」に取り組みます。



※なごや共創研究基金とは

本学の自己資金の重点的な投資と当地域の行政課題に取り組むための名古屋市からの共同研究費(寄附講座)等を主な研究資金としています。それを基に、学内に多様な研究を活性化させ、国際的な研究拠点の形成と世界レベルの研究者の育成、地域社会へのさらなる貢献を目指すとともに、その研究成果としての知的財産を次の研究資金へと再投資する持続可能な研究サイクルを確立します。本学をご支援いただける民間企業や市民の皆さまからのご寄附なども募りながら、まずは、今後10年程度を目途に研究資金100億円を目指します。